

授業の具体的展開例

課題把握から自力解決へ

- T：今から問題を見せます。
C：前とっしょです。
T：同じ問題ですね。前回、比べる量と割合を使って何を求めましたか。
C：〇円を求めました。
T：そうですね。
T：それでは、問題を書き写してください。
T：書けた人から関係図・式・答えを使って自分で解いてみましょう。
(自分で解いてみる。)
T：解けそうだなという人は手を挙げてみてください。
T：確認していきましょう。割合3点セット、分かっている数字は何ですか。
C：2000円
C：1600円
C：70%
T：「A店で売られているトレーナーは定価の何%でしょう。」は何を求めるのでしょうか？
C：割合です。
T：それでは、どれを使うのでしょうか。
C：もとにする量が2000円で、比べる量が1200円です。
T：これまでに学習してきたことが使えそうですか。
T：これから10分、自分の考えを整理しましょう。

自力解決から集団解決へ

- T：発表してもらいます。では、聞きます。
C：割合を求めるから、割合は「比べる量÷もとにする量」だからです。
C：割合を求める公式を使って、「 $1600 \div 2000 = 0.8$ 」だから、0.8を百分率、%にしたらいいと思います。
C：2人と同じで、1600が**比べる量**で、2000円が**もとにする量**だからです。
C：今日は割合を求めるから、倍を求めるのではなく%を求めるからです。
T：今日のポイントは何ですか。
T：割合を百分率にすることです。つまり、**割合を小数で表し、百分率になおす**ことです。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は第7時で、百分率の求め方を理解することを目的とした時間である。これまで児童は、百分率を使って比べる量を求めてきている。本時は、割合を小数で表し、次に百分率に直して問題解決ができる力を身に付けることをねらいとしている。

問題解決の際には、児童の思考の新鮮なヒントとなるよう、小さいホワイトボードを使って、その時その児童に合った適切な指導・支援を行う。

集団解決の際には、A3の用紙に自分の考えや図をかかせて発表をさせる。児童自身の言葉で説明させるが、説明の仕方がよい場合には「分かりやすい説明の仕方だね。」「まず～、次に～という言葉を使うと分かりやすい説明になるね。」などと、その都度、自信をもたせる評価を行う。

このように言語活動にも通じる言葉をかけることにより、聞いている児童にとっても参考となり、以後の説明に意欲的になったり自分の考えの書き方につながったりする。

「活用」の力を育てる評価の視点

自力解決では、予想される児童の反応は以下の8点であろう。

- ア $1600 \div 2000 = 0.8$
イ $2000 \div 1600 = 1.25$
ウ $2000 - 1600 = 400$
エ (ウに加えて) $400 = 4$ 倍
オ $2000 \div 400 = 5$
カ $2000 \times 70 = 140000$
キ 立式できない
ク 問題内容が理解できない

そこで、イの児童には、関係図を見ながら「もとにする量」「比べる量」「割合」を当てはめさせる。ウ・エ・オの児童には、百分率の求め方を関係図で、逆に考えさせる。カ・キの児童には、関係図に「もとにする量」「比べる量」「割合」が入ったヒントカードを提示し、立式できるようにさせる。

さらに、授業の最後に、今日の授業のポイントや、分かったことや次の学習への見通しなどを書かせ、授業における新たな気づきや学びを整理することにより「活用」の力を育成したい。

教材・教具



HOME

本時の流れへ